

たかしゅう

6年生「ピースおおさか・大阪城戦跡めぐり」に行きました



高倉小学校では、系統立てた平和教育を実施しており、その一環として9月

25日に6年生が「ピースおおさか」と「大阪城戦跡めぐり」をしてきました。ピースおおさかは大阪の戦時中の暮らしや戦争の被害について学び、戦争について考える資料館です。大阪大空襲の展示を中心に、太平洋戦争の空襲の被害状況や市民の暮らしについての写真、遺品などを展示しています。

戦後81年です。81年前の6月7日の第3次大阪大空襲と城北公園での機銃掃射、8月14日京橋駅爆撃など、都島区は大阪市の中でも特に空襲の被害が大きかった地域です。第3次大阪大空襲の米軍の照準点は、大阪砲兵工廠、天王寺駅、鶴橋駅、そして「高倉町」でした。砲兵工廠で働く従業員をねらったためなのでしょう。

昔は空襲の体験を語ってくださる地域のおじいちゃん、おばあちゃんがたくさんいらっしゃいました。よく学校にも来ていただき、体験談を聞いて学ぶことができました。先生方も「教え子を再び戦場に送るな」という気持ちで教壇に立たれている方が多かったと感じています。

今、若い先生たちが平和学習を進めていくのが難しい時代です。最近の統計では8月15日終戦記念日を知らない人が国民の2割、8月6日（広島の前

爆記念日)を知らない人が3割ほどに達したそうです。ウクライナ侵攻、台湾有事などの影響で防衛力の強化、あるいは先制的な武力行使を「やむを得ない」と容認・肯定する意識は増加傾向にあり、「対話では戦争をなくすことはできない」とあきらめている層も増えているそうです。ドローンを遠隔操作しながら…、AIで自動的に敵を識別して攻撃するという時代だからこそ、平和について学ぶことが大切だと思います。戦争体験を語る人がいなくなりつつありますが、体験者の方々が残された絵や文章、当時の写真や資料などから学ぶことができます。

子どもたちは、自分より年下の子さえも命を落したり、家族を亡くしたりしている事実を知り、心を揺さぶられていました。それぞれ気づいたこと感じたことをメモに取っていて、学校へ帰ってきてからも気になったことを掘り下げて調べていました。

「防空壕体験では、本当に怖いと思った。6年生の私でも怖いのもっと小さい子たちがこんな体験をしたんだ…」などの子どもたちの感想を聞いていると、感受性の豊かなこの時期に歴史を学習し平和について考える大切さをあらためて感じました。



そして、10月2日のキッズファミリー遠足。

全校児童みんなで行った城北公園の「千人塚」の前で6年生は空襲のことについて調べたこと下級生に伝えました。自分たちが選んだ写真や絵を見せながら、ていねいに説明していました。高倉小学校では毎年、このような活動を通して全学年が平和の大切さについて考えています。この平和学習は、最終的に高倉中学校の平和学習と「広島」への修学旅行へとつながっています。この子たちが大人になっても安心して子育てができる未来のため、まずは目の前の人のことを大切にできる人になってほしいと思っています。この平和がこれからもずっと続くことを祈りながら…。